

2009年8月27日  
新日本製鐵株式会社

フィリピン共和国円借款案件向け建材製品を受注  
～「新日鉄ハット+H 工法」が海外土木工事に初採用～

新日本製鐵株式会社（社長：宗岡正二）は、東洋建設株式会社（社長：赤井憲彦）からフィリピン共和国向け円借款案件「パシグ・マルキナ川河川改修事業」において鋼材約2万トンを受注するとともに、ハット形鋼矢板とH形鋼を組み合わせた高耐力構造である、「新日鉄ハット+H 工法」が採用されました。「新日鉄ハット+H 工法」が海外土木工事で採用されたのは初めてとなります。

本件は、マニラ首都圏を流れるパシグ・マルキナ川の護岸改修による洪水被害の緩和ならびに河川沿いの環境改善を図ることを目的に、日本政府より本邦技術活用条件（STEP）円借款案件として2007年にフィリピン共和国へ資金供与され、今般、東洋建設株式会社により工事が開始されました。

工事地域はマニラ都市部の住居等が密集する地域であり、こうした狭隘地施工に適したハット+H 工法が採用されております。

ハット+H 工法は、世界最大幅を持つハット形鋼矢板(幅900mm)の①高い耐力と②施工性の良さを活かし、サイズメニューが豊富なH形鋼をハット形鋼矢板に結合させることにより、工事地域の地盤状態に応じてより高い「耐力」を自由に設定できる、高い耐力と低コストを両立した構造です。都市部の狭隘地域や軟弱地盤地域、さらには水深の深い岸壁・護岸工事等において有効です。

当社は、2004年よりハット形鋼矢板の製造販売を開始し、需要家より高い評価を得ております。さらに、ハット形鋼矢板のより大水深への適用範囲拡大を目指し「新日鉄ハット+H 工法」の開発に取り組み、構造試験・溶接加工試験・打設試験など、各種試験を実施することにより実工事へ適用可能であることを実証して参りました。これらの成果が本件での鋼材受注に結実したものと考えております。

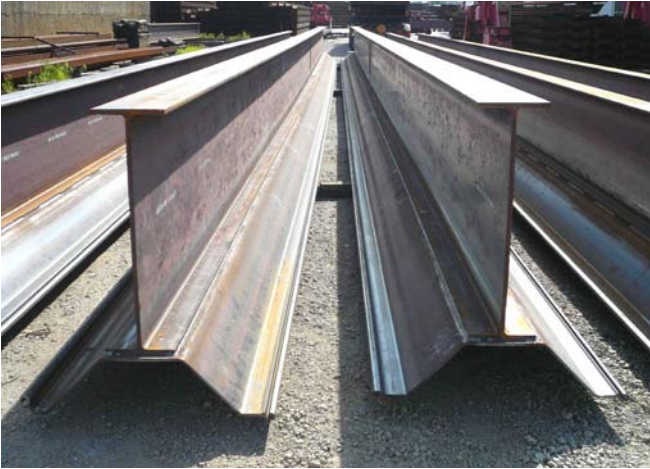
海外建設市場では、今後とも河川改修等の都市整備や交通インフラ整備等の建設事業が見込まれております。当社はこれまでも海外プロジェクトへの建材製品の提案・営業活動を積極的に行って参りましたが、今回の実績をもとに、商品開発並びに提案活動を一層積極的に推進し、建材製品の拡販に注力して参ります。

【お問い合わせ先】

総務部広報センター 鈴木 TEL：03-6867-2135

(別紙) 「新日鉄ハット+H 工法」 構造の概要

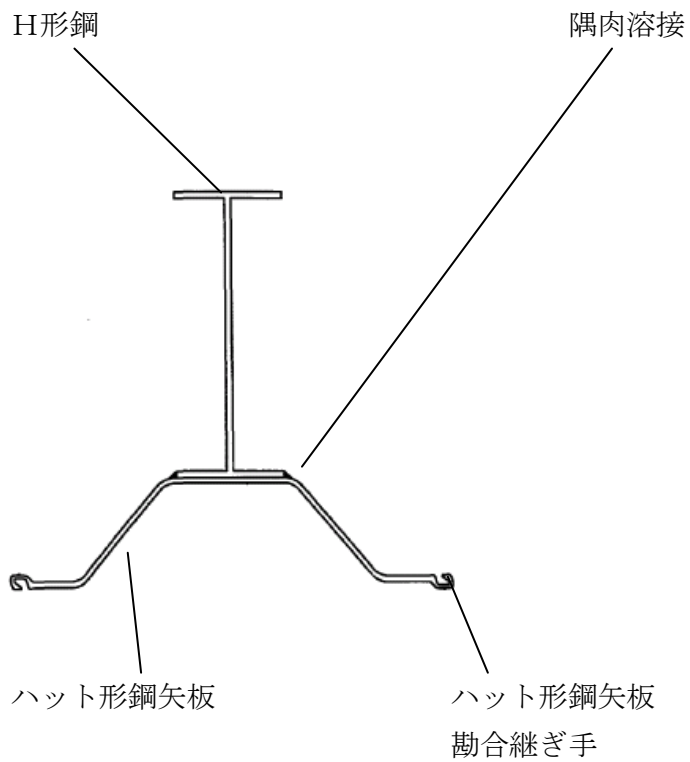
<部材写真>



<施工試験状況写真>



<断面図>



<適用イメージ図>

